

プーチン・ロシアの対米観  
プーチン、対米脅威感を示した国連演説！

**主要点**

第70回国連総会に出席したプーチン大統領の国連演説の特徴は何か？同大統領は何を訴えたかったのか？ロシア国営報道から観察した。

**1 ロシア国営会社報道にみるプーチン演説（略）****2 ロシア国営会社ラジオ スプートニクの報道にみるプーチン演説の特徴**

(1) 主要テーマ毎（筆者の主観による区分）についてプーチン大統領語った所要時間

「国連問題；17分」、「テロとIS問題；3分」で、この2つで演説時間の80%を占める。

(2) 主要テーマに関する演説内容の特徴（略）

(3) 多くの時間を割いた国連問題について（略）

**3 プーチン演説の総括的な特徴—何を訴えたかったのか？****(1) プーチン演説の総括した特徴—対米警戒感・脅威感を発信**

プーチン演説を総括すると、明らかに次の特徴がみられる。

第一に国連総会でのプーチン演説は、主に米国向けの発信であった、

第二にその発信では米国非難が目立ち、そして

第三にその非難は、米国の一極支配と、同国の価値観を異にする政権を崩壊させようとする事に対する懸念（恐れ）と怒りから生じている。

演説が米国向け発信であるという点について、プーチン自身、「先の見通しを持たないアメリカの中東や北アフリカ政策がどんな結果をもたらすかを説明したいと思った」と述べている。

プーチン大統領が、自身の政権が倒される懸念を抱いている可能性があるのは、演説で米国と価値観を異にする政権の崩壊例を数多く取り上げていることから容易に推察できる。

**(2) 個別事案でプーチン大統領の対米脅威感は消失しない**

シリア問題でオバマ大統領は、ロシアやイランと協力する用意があると述べ、即時退陣を求めてきたアサド大統領の移行期、政権にとどまる含みを持たせ、ロシアと妥協の姿勢を見せた。

しかし、そうした個々の事例をもって、プーチンの対米脅威感は消失するものではない。

**(3) 我が国、プーチン・ロシアの対米脅威感を見誤らないように！**

我が国が最近採択した安保法に対してプーチン・ロシアは、中国との関係から厳しい姿勢を見せていないという見方もあるが、それは表層的な見方だ。

プーチン・ロシアの対米脅威感、中国ファクターによって左右されるものではないからである。

ロシアは厳しい対米観を持っているとの認識の下、同国と平和交渉に臨まなければならない。

プーチン大統領は 29 日、第 70 回国連総会に出席。10 年ぶりの演説を行った。プーチン大統領の国連演説の特徴は何か？ 同大統領は何を訴えたかったのか？ ロシア国営会社ラジオ スプートニクの報道等から観察してみた。



プーチン大統領、国連総会で演説（大統領府IPより）

## 1 ロシア国営会社報道にみるプーチン演説

同報道にみるプーチン演説は表 1 の通り（筆者の主観でテーマ毎区分）。

表 1 ロシア国営会社報道にみるプーチン演説

筆者の主観で区分	ロシア国営会社報道にみるプーチン演説
▲国連問題 (17 分間)。	<p>(01:17) (プーチン大統領)</p> <p>「国連での意見の相違はいつの時代もあった。国連は合法性、代表性そして普遍性において比類するもののないストラクチャーだ。</p> <p>確かにここ最近国連を指した批判は少なくない。あたかも国連は効果が不十分なところを見せ付けており、原則的な解決の採択が何よりもまず、国連安保理メンバー間の克服不可能な矛盾に立脚しているというものだ。</p>

	<p>だが指摘しておきたいが、国連での意見の相違は、組織が存在しつづけているこの70年の間、常にあったし、拒否権の発動もいつも行なわれていた。これを使ってきたのは米国であり、英国であり、フランスであり、中国であり、ソ連、後のロシアだった。これは、これだけ様々な顔を代表する組織にとってはしごく当然のことだ。」</p> <p>(01:33)</p> <p>プーチン大統領は国連を迂回するあらゆる行為は国際法に矛盾と強調。</p> <p>(01:33)</p> <p>プーチン大統領：国連の合法性を揺るがす試みは極めて危険。</p> <p>(01:34)</p> <p>ロシアは広範なコンセンサスを土台に国連をあらゆるパートナーと共に拡大する構え。</p>
<p>▲内政干渉問題 (1分以内)</p>	<p>(01:34)</p> <p>1つの発展モデルに従う義務は誰にもない。</p> <p>(01:34)</p> <p>プーチン大統領：「民主主義的革命の輸出」の結末について語る。</p> <p>「我々みんなが過去の教訓を忘れてはならない。我々はソ連の歴史の例を記憶している。社会的実験の輸出、自分のイデオロギー的状况から考え、他の諸国の変化を後押しする試みはしばしば悲劇的結果を招き、成長ではなく、退廃を招いた。</p> <p>だが、他人の誤りに学ぼうという者はどうやら誰もおらず、間違い、革命の輸出を繰り返すだけで、それが今や、いわゆる『民主主義』（革命）という名で続けられている。」</p> <p>「攻撃的な外からの介入の結果、国家制度の改革が起きる代わりに、暮らしのしきたりは不躰に破壊された。民主主義と成長が謳歌する代わりに暴力、貧困、社会のカタストロフ</p>

	<p>イーが横行し、人権は、生きる権利も含め、一切掲げられていない。」</p>
<p>▲テロと I S 問題 (3分間)</p>	<p>(01:34) プーチン大統領、「I Sは無から発生せず、不要体制への対抗武器として養育された」 『『イスラム国 (I S)』は何もないところから発生したのではない。これは不要な体制に抗する武器として大切に育てられたのだ。』プーチン大統領はこう語った。</p> <p>「シリアとイラクに対抗する前進基地として作られた I Sは積極的に他の地域へと勢力を拡大しており、イスラム世界の覇権を目指しているが、明らかにこれらの諸国だけには限定していない。状況は危険というレベルを超えている。」</p> <p>「こうした状況で国際テロリズムの脅威を声高に語るのは偽善的であり、無責任だ。しかも麻薬売買、石油、武器の違法取引などのテロの資金供与チャンネルには目をつぶり、また急進主義的集団を操ろうとし、彼らを自分の政治的目的を達成するために働かせようとしている。」</p> <p>(01:35) プーチン大統領：「本質はロシアの野心にあるのでない。世界に形成されつつある状況を耐えることは不可能。」</p> <p>(01:35) プーチン大統領は、アラブ諸国が積極的に参加するテロ対策連合軍の創設の必要性を明言。</p>
<p>▲難民問題 (1分以内)</p>	<p>(01:37) プーチン大統領は欧州に押し寄せている難民について言及。「難民は苦しみを共にすることを必要としているが、グローバルには問題を解決するのは、破壊されてしまった国家性の復興である。」</p>
<p>▲ウクライナ問題</p>	<p>(01:37)</p>

<p>(1分)</p>	<p>プーチン大統領：ウクライナの国家転覆は国外から煽動 「最初はNATO拡大路線が続行された…。何のためか？それから旧ソ連諸国には選択を突きつけられた。西側と共にあるか、東側と共にするか？遅かれ早かれ、こうした対立的論理は深刻な地政学的危機を迎えるはずだ。そしてこれがウクライナで起きた。ウクライナでは圧倒的多数の住民の現行政権に対する不満が利用され、国外から武力クーデターが煽動された。その結果、燃え上がったのは内戦だ。」</p>
<p>▲経済問題 (2分)</p>	<p>(01:38) プーチン大統領、「拡大する経済エゴ」は貿易体系の完全なる不均衡を孕む</p> <p>「こんにち、国連憲章を迂回して一方的な決議を取るとはほぼ普通のこととなってしまった。これは政治的目的に追従するのみならず、市場のライバルを取り除く手段となっている。」</p> <p>「拡大する経済エゴイズムのさらにもう一つの兆候を指摘すると、一連の国々は閉鎖的、排他的経済統合の道を選んだ。しかもこれを創設する交渉は水面下で行なわれており、自国民にも、自国の実業界にも世論にも、また他の諸外国にも秘密にされている。」</p> <p>「おそらく我々全員に事実を突きつけたいのだろう。プレーのルールは書き直されており、また選ばれた者の狭い範囲に都合のよいように書き直されており、しかもここにはWTOの参加はないということ。これは貿易体系の完全なる不均衡、グローバル経済圏の再分化を孕んでいる。」</p>
<p>▲気候変動等、 諸々の課題 (2分)</p>	<p>(01:40) プーチン大統領は気候変動をグローバルな挑戦ととらえ、天然資源の枯渇と生息環境の破壊状況を話し合う特別フォーラムの創設を提案。</p>

	(01:41) プーチン大統領：「ロシアは国連の巨大なポテンシャルを信じる。」
	(01:41) 「共に行動し、世界を安定し、安全なものにしよう。」
	(01:42) プーチン大統領は演説を終了。

## 2 ロシア国営会社ラジオ スプートニクの報道にみるプーチン演説の特徴

### (1) 主要テーマ毎（筆者の主観による区分）について語った所要時間

表2の通りである。

表2 主要テーマごとに要した時間

演説で述べた主要テーマ (筆者の主観による区分)	所要時間 (分)
国連問題	17 分間
内政干渉の問題	1 分以内
テロと I S 問題	3 分間
難民問題	1 分以内
ウクライナ情勢	1 分
経済問題	2 分
その他	2 分

### (2) 主要テーマに関する演説内容の特徴

演説で述べられたテーマ（筆者の主観による）毎の筆者の所見は、表3の通り。

表3 演説で述べたテーマに対する筆者の所見

演説で述べられたテーマ	筆者の所見
国連問題	<p>一部の国連安保理メンバーが国連を迂回する行為を行っているとして、これを強く非難。                      間接的に米国を強く非難するとともに、国連重視の必要性を改めて強調。</p>
内政干渉の問題	<p>(欧米諸国が唱えるような)発展モデルは一つだけではないにもかかわらず、外国が民主主義という名のもとに介入し、その国の国家制度を破壊。その結果その国をカタストロフィー化させていると、外国の内政干渉を問題視。                      外国とは米国を指していることは言うまでもない。間接的に米国を強く非難。</p> <p>一方、この非難はプーチン政権が自国の政権崩壊を米国が狙っている可能性があるとして、それを恐れ、非常な警戒（脅威）感を抱いていることを示しているものとして要注目</p>
テロとI S問題	<p>I Sはその危険というレベルを超えたと語り、アラブ諸国が積極的に参加するテロ対策連合軍の創設を提唱。</p>
難民問題	<p>この問題を解決するには破壊国家を復興することが必要だと強調。</p> <p>逆説として国家を破壊することの危険性を指摘。間接的に国家体制の崩壊を企てる米国を指弾。</p>
ウクライナ情勢	<p>今日のウクライナの内戦状態は、NATOの東方拡大と関連がある。その拡大で旧ソ連諸国は西側か東側化の路線選択を迫られた。                      そして、西側を選択すべきと国外からクーデターの扇動がなされた。結果としてウクライナの内戦を招いた。</p>

	そのクーデターの国外からの扇動者は、米国だと言っていることは、(これまでのプーチン大統領の発言と合わせ) 明らかである。ここでも米国を強く非難。
経済問題	—
その他	—

### (3) 国連問題及び I S 問題について

今回のプーチン演説では、所要時間から見ると(表 2)、国連問題(17 分)、「テロと I S」問題(3 分)、そして経済問題(2 分)となっており、国連問題と「テロと I S」問題が実に演説の 20 分を費やしており、演説の 8 割を占めている。したがって、プーチン大統領はこれを特に重視して演説を行ったとみてよいだろう。

この 2 つの問題について、29 日、ロシアの国営 TV 報道は、別紙 1 のように報じた。その要点は次の通り。

①冷戦終結後、世界には一極支配のセンターが生じ、そのピラミッドの頂点に立つものは、何をしたらいいか、自分は誰よりも熟知していると思うようになった。したがって国連のことは考えなくてもいいということになった。

②国連の権威と合法性を弱めようとする企ては、極めて危険なことで、国際関係の機構全体の崩壊を導くかもしれない。そうなれば力の強いものの権利以外にはいかなるルールも存在しなくなる。ますます押しつけが拡大し、法律に依拠することがますます少なくなる。現実的な民主主義と自由はますます少なくなる。外部から管理制御される独立国家が事実上拡大していくことになる。

③シリア政権とその政府軍との協力を拒否することは大きな間違いであると考えられる。シリア政府軍はテロリストに面と向かって戦っている。アサド大統領の政府軍とクルド義勇兵以外に IS や他のテロリストと現実的に戦う勢力はないという事実を認める必要がある。

④オバマ大統領は、シリアのアサド大統領は退陣すべきだとの立場を改めて明言したが、プーチン大統領は、アサド政権は唯一の合法政権であり、過激派組織 IS に打ち勝つことができるはずであり、また打ち勝つであろうとの立場から、

国際社会に対し結束して問題に対処すべきであると主張した。

⑤真に広範な国際的テロ撲滅のための同盟を作ることを提案する。反ナチスドイツの同盟のときのように、様々な勢力を結集して、人類に敵意を持つ勢力に対抗することができるはずだ。この同盟にはイスラム諸国も中心的メンバーとして参加すべきだ。

### 3 プーチン演説の総括的な特徴―何を訴えたかったのか？

#### (1) プーチン演説の総括した特徴―対米警戒感・脅威感を発信

以上の観察からプーチン演説を総括すると、明らかに次の特徴がみられる。

第一に国連総会でのプーチン演説は、特に米国向けの発信であった、

第二にその発信では米国非難が目立ち、そして

第三にその非難は、米国の一極支配と、同国の価値観を異にする政権を崩壊させようとすることに対する懸念（恐れ）と怒りから生じている。

国連演説が米国向け発信であるという点について、プーチン大統領自身、「自分が国連総会にやって来たのは真実に目を開いてもらいたいと思ったからだ。先の見通しを持たないアメリカの中東や北アフリカ政策がどんな結果をもたらすかを説明したいと思ったからだ」と述べている（ロシアTV）。

プーチン大統領が、自身の政権が倒される懸念を抱いている可能性があるのは、同大統領が演説で米国と価値観を異にする政権の崩壊例を数多く取り上げていることから容易に推察できることである。

#### (2) 個別事案でプーチン米国に対する怒りと懸念は大統領の対米脅威感に消失しない

現下の焦点であるシリア問題でオバマ大統領は、この問題でロシアやイランと協力する用意があると述べ、長らく即時退陣を求めてきたシリアのアサド大統領が移行期に政権にとどまる可能性を示唆した（移行政府に参加する可能性に含みを持たせた）。行き詰まり打開のため、オバマ大統領は妥協の姿勢を見せたのである。

したがってシリア問題では今後、プーチン大統領とオバマ政権とが協力関係を構築する可能性はなしとしない。

しかし、そうした個々の事例をもって、プーチン・ロシアが米国に警戒感・脅威感を無くすとみるのは早計である。米国が一極支配の考えを捨て、内政不干涉の立場を明示しない限り、プーチン・ロシアの対米警戒感・脅威感はなくならないからだ。

### (3) 我が国、プーチン・ロシアの対米脅威感を見誤らないように！

我が国はこのプーチン・ロシアの対米観の厳しさを見誤ってはならない。日露交渉が喫緊の課題である現在、プーチン・ロシアの対米観が厳しいものであるのは、我が国にとって不幸なことである。

我が国が最近採択した安保法に対してプーチン・ロシアは、台頭目覚ましい中国との関係から厳しい姿勢を見せないという見方もあるが、それは表層的な見方ではなからうか。

プーチン・ロシアの対米脅威感、中国ファクターによって左右されるものではないからである。

いずれにしてもプーチン・ロシアが米国に厳しい警戒感と脅威感を見せている限り、その米国と関係強化を図る我が国の行動は、プーチン・ロシアにとって好ましいはずはない。これをよく念頭に置いておかなければならない。中国が台頭するとロシアは日本にすり寄るといった甘い見方は捨てなければならない。

プーチン・ロシアの厳しい対米観の下で、今後、我が国はどのように北方領土問題を含む平和条約締結交渉を行えばよいのか、政府の英知が問われるところである（筆者の見解は別稿）。

## ロシア国営TV

(下線は筆者が付す)

プーチン大統領は第 70 回国連総会に出席。10 年ぶりの演説を行いました、大統領の演説には大きな関心が集まりました。記者さん。プーチン大統領の演説の詳しい内容を伝えてください。

大統領は丁度 30 分前に演説を終えました。プーチン大統領の演説には特別の関心が集まりました。アメリカのテレビ放送各局は昨日、プーチン大統領の特別インタビューを放送しました。大統領は国連の重要性を指摘し、多くの国々が国連の再編と安保理常任理事国による拒否権の廃止に賛同している現状を踏まえ、拒否権の意味を冷戦の結果と結び付けて説明し、アメリカが自らを支配センターとみなして、世界的な出来事をその支配下に置くことは許せないとしています。

(プーチン大統領)

私達はみんなよく知っています。冷戦の終結後、世界には一極支配のセンターが生じました。そのピラミッドの頂点に立つものは、これほど強くて並外れた存在ならば、何をしたらいいか、自分は誰よりも良く熟知していると思う誘惑にかられるようになりました。したがって国連のことは考えなくてもいいということになりました。自動的に制裁を加えておけばいい、決定を法制化することは妨げになる、つまり足手まといになるということです。国連創設当初の形は古くなった、その歴史的な使命は果たしたという話が持ち上がりました。もちろん世界は変化しています。国連はその当然の変化に相応するものでなければなりません。ロシアは幅広いコンセンサスを基盤にして、国連の今後の発展のために全ての加盟国と共にその作業に入る用意があります。しかし、国連の権威と合法性を揺さぶって弱めようとする企ては、極めて危険なことであります。それは国際関係の機構全体の崩壊を導くかもしれません。そうなれば力の強いものの権利以外にはいかなるルールも存在しなくなります。そうなれば集団作業に代わってエゴイズムが支配する世界となります。ますます押しつけが拡大し、法律に依拠することがますます少なくなります。現実的な民主主義と自由はますます少なくなります。外部から管理制御される独立国家が事実上拡大していくことになります。

プーチン大統領はまた IS と戯れ、彼らに武器を与えるのは非常に危険であり、それがどういう結末を迎えるかを説明しました。

(プーチン大統領)

尊敬するみなさん。みなさんは非常に残忍な人間たちとことを構えています。しかし決して愚かな人々でも幼稚な人々でもありません。皆さん方より愚かではありません。誰が何を自分の目的のために利用しているのか、まだ明らかではありません。最も穏健なテロリストに武器を引き渡した結果がどうなったか、最近の情報が如実に物語っています。

テロリストとのいかなる戯れごとや、まして彼らを武装することは目先がきかないということだけでなく、火に油を注ぐことになります。その結果、グローバルなテロの脅威は危機的なまでに増長します。世界の新たな地域を巻き込んでいきます。ましてや IS のキャンプでは多くの国から募った武装勢力を育成訓練しています。これにはヨーロッパ各国出身者を含みます。残念ながら率直に申し上げますが、ロシアも例外ではありません。血のおいをかぎ取ったテロリストのリーダーらがその後帰国して自らの邪悪な行為を続けるのを許してはなりません。私達はそうならないようにしたい。誰もそんなことになりたくありません。ロシアはいつもあらゆる形でのテロにきっぱりと反対してきました。今日、私達はテロとの戦いを進めているイラクやシリアやほかの各国にも軍事支援を行っています。シリア政権とその政府軍との協力を拒否することは大きな間違いであると考えます。シリア政府軍はテロリストに面と向かって戦っています。アサド大統領の政府軍とクルド義勇兵以外に IS や他のテロリストと現実的に戦う勢力はないという事実を認める必要があります。

プーチン大統領は自ら演説の草稿を 1 か月かけて練り上げました。具体的かつ厳しい文言や提案がいつも通り非難を浴びることは承知の上でした。とりわけロシアが国際政治に特別な野心を抱いているといった非難です。プーチン大統領はその非難にも野心などの問題ではない。自分が国連総会にやって来たのは真実に目を開いてもらいたいと思ったからだ。先の見通しを持たないアメリカの中東や北アフリカ政策がどんな結果をもたらすかを説明したいと思ったからであると述べました。

プーチン大統領の前に演説を行ったオバマ大統領は、シリアのアサド大統領は退陣すべきだとの立場を改めて明言しました。これに対し、プーチン大統領は、アサド政権は唯一の合法政権であり、過激派組織 IS に打ち勝つことができるは

ずであり、また打ち勝つであろうとの立場から、国際社会に対し結束して問題に対処すべきであると主張しました。

(プーチン大統領)

野心に動かされることなく、共通の価値観と共通の利益に基づき、国際法を順守しつつ、今私たちが直面している新たな問題を解決するために結束し、真に広範な国際的テロ撲滅のための同盟を作ることを提案します。反ナチスドイツの同盟のときのように、本当に様々な勢力を結集して、人類に敵意を持つ勢力に対抗することができるはずです。この同盟にはイスラム諸国も中心的メンバーとして参加すべきです。IS はまさにイスラム諸国にとっての直接的な脅威であり、その残虐な行為によって、イスラム教徒を侮辱し、イスラム教の人道的な価値を歪めています。イスラム教の指導者の皆様に訴えたい。皆さんの権威が、皆さんの言葉が今ほど必要とされているときはありません。武装ゲリラ達によってテロに引き込まれようとしている人々を軽率な行為から守り、また騙されてテロの道に引き込まれた人々には正しい道に戻り、武器を捨て兄弟同士の殺し合いを止めるよう説得しなければなりません。

(出所 ワールドニュース NHK)